

令和 6 年度第 3 回三条市未来の学校検討委員会会議録

- 1 開会宣言 令和 6 年 12 月 23 日（月） 午後 3 時 00 分
- 2 場 所 三条市役所栄庁舎 3 階大会議室
- 3 出席者 雲尾委員長、高橋(陽)委員、金子委員、土田委員、鍋嶋委員、高野委員、
中山委員、永井委員、西川委員、遠藤委員、田邊委員、関委員、佐藤(道)委員、
渡辺(文)委員、関崎委員、前田委員、高橋(茂)委員、山宮委員、高橋(喜)委員、
松原委員、吉田委員、黒田委員、渡邊(三)委員、上村委員、今井委員、
菅野委員、熊倉委員、結城委員、藤島委員、佐藤(江)委員、大箭委員、
石黒委員、佐藤(栄)委員
- 4 欠席者 野崎委員、近藤委員、斎藤委員、高波委員
- 5 説明のための出席者
高橋教育長、平岡教育部長、野水教育総務課長、相田学校教育課長、
森田教育センター長、佐藤教育総務課課長補佐、井上教育総務課庶務係長、
富樫教育総務課主任
- 6 傍聴人 1 人
- 7 会議次第
 - 1 開会
 - 2 議事
 - (1) 三条市立学校児童生徒数の推計（資料 7、7—1～7—3）
 - (2) 自学園の現状を踏まえた小学校の在り方に関する意見ほか報告（資料 1）
 - 3 その他
次回検討委員会の日程について
 - 4 閉会
- 8 会議の経過及び結果
 - 2 議事
 - (1) 三条市立学校児童生徒数の推計（資料 7、7—1～7—3）
 - ・野水教育総務課長が説明
(雲尾委員長)
ただいまの説明につきまして御質問、御意見、御発言ある方いらっしゃいましたらお願いいたします。
 - (永井委員)
永井と申しますが、まずもって新型コロナウイルス感染症の影響で人数が減る理由がち

よっとよく分からないんですけど、パターン設定ですけど、そもそもなぜ減るのかという。

(野水教育総務課長)

御質問ありがとうございます。ちょっと私の説明が不足しておりまして恐縮でした。新型コロナウイルス感染症禍においては、妊娠、出産を感染症を考慮して控えられるといった傾向があることも一部当時報道されていました。そもそも外出が制限される、交流の機会が制限される等々の中で、緊急事態宣言などの発令もございました。そういったことを踏まえて、この期間は一定の人口の動態について影響があったものと考えまして推計させていただく中で、今申し上げましたパターン2、パターン3においては当該期間について減少するとなったものでございます。

(吉田委員)

四つ葉学園、吉田であります。この件につきまして、このような形で新型コロナウイルスの影響がある、なし等々によって児童生徒数の推移の変化を見ているような、でもほかの市町村ですよ、つまりこういうような形の中で統廃合等々いろいろ検討しているのは三条市だけではないと思うんですけど、そういった事例を参考にしてこういう3パターンで出されたのかということと、もしくは独自の考えということなんでしょうか。教えてください。

(平岡教育部長)

ありがとうございます。これほかの事例や推計を参考に行っているのかとの御質問ですが、独自に算出しています。といいますのは、御覧いただくと、一番最後はどの資料も同じ数字なんですけど、6ページの11年度、12年度の1年生の数字を御覧いただきたいと思います。実は私どもこの推計をするに当たっては、一旦波があれど、過去の減少率を参考にしつつ、その幾何平均を取って今後もその減少率で進めてよいのではないかと考えました。しかし、御覧になってお分かりのとおり、7年、8年、9年、10年に至っては622から始まって553まで落ちていきますけども、ある程度緩やかに落ちていっている状況になっています。ところが、11年に至っては一気に100人減ということになっています。これは何かということを再三私どもも考えた結果、この子たちが生まれた年というのは新型コロナウイルス感染症が蔓延していた頃でもありました。11年、12年の子たち、恐らく13年までかもしれませんが、この子たちというのは感染症禍の中で生まれてきた子であり、結果として、いろんな要素が働いたのではないかと仮定したところであります。ただ間違いなく数字として傾向を取るには下落傾向が著しいということで、ここをどう取り扱うかと考える中で、今回3パターンを用意したというものでございます。

(関委員)

第四中学校の関です。多分永井さんも吉田校長先生も同じことを言われたと思ったんで

すけれども、コロナ禍の影響で3パターンを作られる、資料を作られるのはすごく大変なことだったと思うんですけれども、コロナ禍じゃなくて、コロナ禍で経済が冷えた、今これから日本の経済がもっと低迷していく、収入が減っていく、家族を持ちにくくなる、子どもを作りにくくなるという状況を踏まえたものの結果じゃないかと僕は思っているんですけれども、コロナ禍の影響をこれから考えてもしようがないわけですし、経済がどれだけ冷え込んでいく、子育てが難しくなっていく、家族を持つこと自体が難しくなっていくということを考えた上での資料だということだったらいいんですけれども、3パターンをつくった中で一番減少率が低かったというものを踏まえて、これからのことを考えていかなきゃいけないということでしたら納得なんですけれども、このあえて3パターンを作ってじゃなくて、これほどまでに子どもは少なくなっていくんですという事象を皆さんに説明できればそれでよろしいんじゃないでしょうか。

以上です。

(平岡教育部長)

ありがとうございます。あくまでも推計でございます。委員おっしゃるとおり、もしかすると現下の物価の状況であったり、子育てのいわゆる世間的、社会的な見方として子育てしにくさというものが働いて、もしかするとこの一番悪いパターン、パターン3以上に落ちが出てくるかもしれません。ただ、今ある材料として我々が数字上可能な整理として推測できるのが、この1、2、3パターンが限界と見ております。恐らく今委員がおっしゃるようなことも含めて考えると、幾パターンも出てくるものだと思いますし、もっと落ちるパターンも出てくるかもしれません。ただ、そこまでは今回出していないというのが実情でございます。この1、2、3のパターンで御理解いただければと考えております。

(雲尾委員長)

ありがとうございました。

そのほかございますでしょうか。

(2) 自学園の現状を踏まえた小学校の在り方に関する意見ほか報告(資料1)

・野水教育総務課長が説明

(雲尾委員長)

今ほど資料1について説明がありましたが、本日机上配付でございましたので、これから15分程度時間を取りまして、各学園、校長会、幼児の保護者、公募委員、それぞれの選出区分のグループで資料に目を通していただきたいと思います。その際、皆様からの御意見を事務局が要約して記載した一番右の欄、おおむねの方向感の整理案を御確認ください。15分たちましたら、各学園から順番に学園運営協議会での検討経過について御発言を

お願いしたいと思います。また、事務局が要約した内容について加筆や修正すべき点がありましたら併せて御発言願います。なお、時間の都合上、発言は代表者お一人様から5分程度でお願いいたします。

話合いに入っていただく前に、今ほどの事務局の説明について質問や意見等ございましたらお願いいたします。いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

それでは、おおむね40分頃までとなりますので、グループごとに話合いを始めてください。よろしくお願いいたします。

～15分間話合い～

おおむね15分経過いたしました、よろしいでしょうか。

それでは、時間が参りましたので、順番に御発言をお願いしたいと思います。

まずは、三条嵐南学園から代表の方、お願いいたします。

(山宮委員)

三条嵐南学園の山宮と申します。発表内容は、その右側に書いてあるとおり、当面現状のままでよいという結果でございます。これまで事務局の方々が用意してくださった資料を委員で共有した結果であります。

以上です。

(雲尾委員長)

ありがとうございました。

続きまして、一ノ木戸ポプラ学園から代表の方、お願いいたします。

(金子委員)

皆さん、お疲れさまです。ポプラ学園の金子と申します。私たちも話し合った結果、皆さんから出していただいた意見を基に少し話し合いました。現状維持のまま変わらないですが、きっと統合等の話をこれから進めていくとしても、やっぱり住宅とかそういったところの点で住みやすい環境を作ってあげなければ、結局また第2、第3と同じような問題が起きてくるのではないかというところで、まちづくりも含めての検討のほうも必要ではないのかということを少しだけ話し合ってみました。

以上です。

(雲尾委員長)

ありがとうございました。

続きまして、三条学園から代表の方、お願いします。

(松原委員)

三条学園お願いします。三条学園の考えとしては、プリントのとおりであります。特に付け足しもないんですけども、現状では特には統廃合を検討する時期にはないというふ

うに考えておりますが、ただ推計のパターン3などを見ますと、かなり急速に子どもの人数が減っているというような現状もあります。なので、急に減ってからさあ対応をと言われてもなかなか難しい面もありますので、住民基本台帳の人口に基づく推計ではない数が分かり次第、情報を随時教えていただきながら、学園、それから地域と情報を共有しながら考えていくことが大事なのではないかというふうに話をしました。また、上林小学校の独特の問題なのかもしれませんが、裏館小学校に学区外で行っているお子さんが結構います。裏館小学校に行くのではなく、上林小学校にぜひ来ていただく、そういった取組もスタートしていかなきゃいけないねと上林小学校の2人で話をしていました。

以上です。

(雲尾委員長)

ありがとうございました。

続きまして、四つ葉学園から代表の方、お願いします。

(鍋嶋委員)

四つ葉学園です。お願いします。ここに記載されているとおりなんですけれども、一番右のおおむねの方向感の整理についてはちょっとニュアンスが違ってしまっていて、四つ葉学園としては一番左側に書いてある一番下、統合を検討すべき時期については、三条市が今後の小中一貫教育の目指す姿を示した後、幅広く意見を聞いてから結論を出したいと、現状では出せないということが書いてありますが、まさにそのとおりだと思っていて、小中一貫教育になってから三条市は10年経過しているわけです。その一番モデルになっている大崎学園との小中一貫にした、このことを検証した上で、三条市がこれから目指すべき小中一貫教育の姿をまず市が示してもらいたい。その上で我々四つ葉学園としては、地域コミュニティーの状況を踏まえて、住民の方々に説明、それから合意形成をしていきたいということが私たちずっと話し合ってきたところでございます。

以上です。

(雲尾委員長)

ありがとうございました。

続きまして、瑞穂学園からお願いします。

(高野委員)

瑞穂学園の高野です。話し合った内容の大筋のものは、ここに書いてあるとおりです。特に出てきたキーワードとしては、地域の中の学校であるということと、あとどう考えても子どもの数減っていきますが、その前に瑞穂学園の中の校舎の耐用年数のほうが、老朽化のほうが先に来るので、子どもが少なくなってしまうのか、先に校舎がなくなってしまうかということになります。そういう意味では、校舎の老朽化も一緒にな

って考えていかないと、地域の中の学校という存続の課題は、検討するにはそういうところも一つのファクターとして必要なというふうに意見がありました。子どもの数がどんどん、どんどん少なくなっているので、少なくなってから考えるのではなくて、今この時点で将来的にどういう体制が一番ベストかということを話し合っていく必要があるだろうというふうな意見が出ました。

以上です。

(雲尾委員長)

ありがとうございました。

続きまして、三条おおじま学園から代表の方、お願いいたします。

(渡辺(文)委員)

三条おおじま学園の渡辺です。おおじま学園を見ていただければ分かると思うんですけど、よその学園に比べましていっぱい項目書いてありまして、みんなで一生懸命考えたんですけども、3校の運営協議会で各々で話し合っ、それをまとめた結果がこれになっています。それで、現状からいいますと、大島小学校は人数が全く現状でも少なく、存続はやっぱ難しいんじゃないかという結論なんですけども、ただ簡単に小学校をなくすとか、そういうのはできませんので、市のほうから統合してくださいという、それに向かってくださいという意見を出されれば、自治会としまして6つの自治会で話し合っ、しっかり意見をまとめて、住民の意見をまとめて、学校の意見をまとめて、統廃合に向けてやっていきたいと思っています。

それで、一番右側に書いてあるこの意見なんですけども、今言ったこととほとんど変わりませんので、これでいいんじゃないかなというふうに感じます。

それで、7の3によりますと、不思議なことにおおじま学園はほかの学園よりもいっばいになるような数字になっておりますので、須頃小学校の影響だと思いますけど、そうなればおおじま学園は存続できるんじゃないかと3人で話し合いました。

以上です。

(雲尾委員長)

ありがとうございました。

続きまして、さかえ学園から代表の方、お願いいたします。

(永井委員)

さかえ学園の永井と申します。おおむねの方向感の整理については、案のとおり、現状を踏まえれば統廃合検討の緊急性は感じてなくて、引き続き協議をしていく必要があるということなんですけれども、重要なところとしては、この前の運営協議会で話し合った中で意見が出たんですけども、その中で統廃合が望ましい、あるいは存続を求める意見じ

やなくて、どちらとも判断つけ難い意見ということで、今後保育所等の保護者の意見、これから小学校あるいは入学させるような世代の子どもたち、あるいはそれぐらいの世代の人たちの意見を優先して聞く場を設けて、協議を継続していくべきじゃないか、そこをちょっと優先的に力を入れて言いたいと思います。

以上です。

(雲尾委員長)

ありがとうございました。

続きまして、ただの郷学園から代表の方、お願いいたします。

(西川委員)

お疲れさまです。ただの郷学園保護者代表、西川です。ただの郷学園は、おおむねの方向感、一番右側の欄ですけれども、児童数の減少が顕著に現れておりますので、統廃合の検討を開始していただきたいという旨報告させていただきます。

あと、補足的なものをこの場をお借りしてお話しさせていただきますけれども、統廃合の検討の進め方につきましては教育委員会さんのほうからお示しあると思うんですけども、統合するに当たっては下田の子どもたち、十人十色いろいろいます。大勢の輪の中になじめない子どもだってもちろんいると思いますので、教育委員会さんのほうからは施設の統合に重きを置くのではなく、そういった子どもたちのケア方法についても並行して検討を進めていただきたいと思います。

加えまして、ほかの学園の方からも意見が出ているんですけれども、近年の気候変動で夏場の暑さは今異常、尋常でない状態が続いております。登下校の規則があるのは重々承知しておりますけれども、とりわけ下田地区につきましては、近年熊、猪、猿とか、そういった人に危害を与えかねない獣が多発しております。子どもを第一に考えた施設の統廃合の検討に加えまして、そういったソフト的な対策として登下校の在り方もぜひ一緒に検討をしていただきたいと思います。

また、先ほど申し上げたように、統廃合、教育委員会さんのほうから検討の進め方についてお示しがあると思うんですけども、下田の保護者からは賛成の声も多数上がる中、少なからず反対というか、不安の、心配の声も上がると思われます。先ほどの児童のケア方法にもちょっと重複するかもしれませんが、そういった保護者の不安に対しましてぜひ寄り添って検討を進めていきたいのが1つと、あと地域からについても、学校がなくなる、いわゆる地域が衰退するんじゃないかという懸念する声も上がると思います。その地域につきましては、地域と協働でぜひそういった地域を維持させる、存続させる体制づくりといいますか、そういったものを努めていただければと思います。

ただの郷学園、ちょっと学校の意見というか、書かせてもらったんですけれども、地

域と保護者はそういった覚悟をする時間が必要だと思われるので、教育委員会につきましてはそういった地域、保護者が覚悟する時間というものをぜひ丁寧に作っていただきまして、地域、保護者のよきパートナーとして寄り添っていただければと思います。

あと、すみません、ちょっと話がずれて申し訳ないんですけども、教育委員会のほうで今作っていただきましたA3の中で、方針区分ということで、今、一番左側ですけど、どちらかというとな統廃合が望ましいとする意見という区分の中に、ただの郷学園につきましてはいろいろ記載していただいておりますが、統廃合につきましてはこれから検討を進めていただければと思いますので、統廃合が望ましいという区分にされてしまうとちょっと強引なのかなというふうに、今我々のほうでお話をさせていただきました。ただの郷学園はあくまでも統廃合の検討を進めていただきたい、検討する中で子どもたちにとって一番よい形になるよう我々も協力していければと考えております。

話が長くなって申し訳ございませんでしたが、我々からの意見以上です。

(雲尾委員長)

ありがとうございました。

続きまして、大崎学園から代表の方、お願いいたします。

(菅野委員)

大崎学園菅野です。うちの学園としては、資料のとおり現状のままでなんですが、先ほどのやはり児童生徒数の推移というあれを見る限り、非常に早い段階で半減していくということが見えました。ただ、地域を見れば確かに残っていくのは高齢者ばかりで、若い人がどんどん外に出ていけば、さらに加速度的に子どもの数が減っていつてしまうだろう。そうすると、その対策というのが急がれるのではないかなというような話をしていました。

以上です。

(雲尾委員長)

ありがとうございました。

続きまして、校長会長から代表の方、お願いいたします。

(結城委員)

中学校長会長、第三中学校、結城でございます。資料のNo11と12は小学校長会、中学校長会ですが、熊倉委員も私もそれぞれ校長会で検討した内容ではございません。これはあくまでも個人の意見ということでございます。いずれも教育効果を得られるためには一定数のやはり児童生徒数が必要かなというふうに考えております。学校は地域のコミュニティーとしての大きな役割があるというふうに思っておりますので、著しく小規模な状況が継続する場合には検討を開始するというところで小中学校校長会会長、副会長、中学校

長会長、副会長として考えていますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

(雲尾委員長)

ありがとうございました。

続きまして、幼児の保護者の方から代表の方、お願いいたします。

(大箭委員)

こども園保護者代表の大箭です。3人の意見としては、子どもの人数が減っているというのは数字で見て分かるので、すぐに統廃合ではなく、ちょっと先のこととして、しなくてはいけないことも出てくると思うんですが、その前に同じ学区内や学年とか関係なしに交流の場が持てたりとか、今やっているところもあると思うんですが、そういうふう子どもたちがほかの学年やほかの学区の子たちと交流をして、いざ統廃合で一緒になる前に交流を持てていれば子どもたちのほうもその準備ができるんじゃないかなというがあるので、そう思いました。

以上です。

(雲尾委員長)

ありがとうございました。

続きまして、公募委員の方から代表の方、お願いいたします。

(石黒委員)

公募委員の石黒と申します。提出したこと以上はございません。

あと、私どものほうは小学校のほうと相談しまして、現状維持ということでまとまりました。

あと、佐藤委員のほうから若干補足してもらいます。

(佐藤(栄)委員)

学園運営協議会の皆様、事務局の方々、これだけの資料をまとめられた苦労が本当に手に取るようでございます。お疲れさまでございました。大分私が先回申し上げたように、長くまで人口動態を考えてくださっているんですけども、県の資料を見ましたら、令和45年まで予測しておりました。100という指標を比較しておったわけですが、できる限りいろんな状況を比較していただければいいというのが感想でございます。

(雲尾委員長)

皆様、ありがとうございました。ただいまの件につきまして御発言ほかにある方いらっしゃいましたらお願いいたします。いかがでございましょうか。

(関委員)

第四中学校の関です。今各グループ、あと各代表の方から内容の説明や意見をいただい

たんですけれども、自分頂いているこのA3の資料の三条市全体について、統合による適正化や小規模での学校運営に関する意見一覧表の5分の3ページにある、うちの鍋嶋会長もかなり注目されていたんですけれども、佐藤（江）委員さんの意見のところはかなり練り込まれた意見だと思います。学校規模どころか、個人でこれだけ書かれるということはすごいことだと思うんですけれども、すみません、佐藤（江）委員さんの御意見を一回これ全体的に教えていただけますでしょうか。お願いいたします。

（鍋嶋委員）

特にイェナプラン教育に関して。

（関委員）

いや、最初のほうすごく重要なこと言っているんで。1行目からかなり重要なことを言っていますんで。

（佐藤（江）委員）

ありがとうございます。佐藤江理です。これを頂いて、何か意見しなきゃいけないなと、どうしたらいいかなと思ってちょっといろいろ調べたり、いろいろインスタを見たりとかして、どういう、ここでの京都の事例だったりとか、いろんなお話を聞いていたので、全然知らない世界の教育があるんだなというのが知れたのがものすごくよかったなと思って、ほかにはどういうところがあるんだろうというのをぱあっと見ていた中に目に留まったのがたまたまイェナスクール、イェナプランという教育というのがあったんですけど、1番は前に講師の方が来て講義受けたときに、小学校、中学校、保育園とか、あと公の市の機関が入ったのをやっていますというところで、いろんな、先生たちもスタッフの方を共有できていいという話を聞いたので、すごくそれはいいなと思いました。私も仕事でたまに小学校に行ったりとかするんですけど、花屋をやっている、もともと小学校の、いろんな学校にレッスンに行ったりとかたまにします。卒業式で作るコサージュを教えてくださいとか、そういうので行って子どもたちに教えたりとかするんですけど、そういうところに行くと、今結構スクールアシスタントの方たくさんいらっちゃって、先生方のほかに3人ぐらい学年ごとについてくださったりして、そういうふうに手厚い感じでされているのかなというのが自分が子どものときと比べると違うなというふうに感じていることが結構あって、そのときに、この間の講義聞いたときに、そのスクールアシスタントの方というのは先生とまたちょっと違った目線でいろいろ子どもたちのサポートをしてくださると思うんで、それが小学校の子を見るでもいいし、中学校を見るでもいいし、何か市のお手伝いだったりとか、いろんなこともできるのであれば、今ちょっとここ足りないから、来てみたいなサポートをいろいろしてくれるというふうに共有できたりするのかなというのが、私何も分からないんですけど、想像で考えたので、そのように書いてみま

した。

あとは、今、自分が子どもの頃は学校から帰ってきたら友達のうちに遊びに行っていたのが普通の生活をしていたんですけど、ちょうど今5年生の子が小学校に入ったときにもうコロナが始まっちゃったので、丸々4年間友達のうちに遊びに行くということがほぼない小学校生活を過ごしてしまっていて、私が仕事をしているので、おばあちゃんちに帰るんですけども、おばあちゃんちでずっとテレビ見たり、宿題やったり、おばあちゃんと人生ゲームしたりして遊んでいて、弟たちが帰ってきてみたいない感じで過ごしていて、こうやって中でずっと過ごしているのってすごく不思議だなと思って、遊びに行ったりとか、外で走り回ったりとかあんまりしている姿も見なかったし、おばあちゃんなので、外に出してくださいというのも私もちょっと、預かってもらっているんで、言えなかったりとかもしていたので、そういうのが学校でもうちちょっといろんな活動が、遊びと学校生活というのがもうちょっと混ぜ混ぜになっても楽しいんじゃないかなというふうに思いました。

あとは、そうなっていて、子どもが4年生ぐらいになったときに、思春期でちょっとクラスの子とうまくいかなかったときに、私がもともと入っていた三条市のジュニア合唱団というのがありまして、今県央ジュニア合唱団として活動しているんですけども、そこに体験に行き入ることになったんですけど、そこは小学校1年生から高校3年生までの子が活動していて、普段はあんまり外にも遊びに行かず、同じ学年の子だけと遊んでいたんですけども、高校生のお姉さんたちと関わって、すごく教えてもらうことが増えたりとか、それですごく憧れを持っていろいろ質問したりとかしたら、すごく自分が出せるようになって、5年生になった今はクラスの子たちと関われるようになったというのがこの1年私と娘の中で起きたことだったので、学年だけでやっぱり狭い世界でいるとその中の自分というのしか分からないんですけど、どんどん子どもが減っていくのはしょうがないことなので、せっかくこういう機会だから、いろんな関わりを持てるような、大人とか、下の子とか、上の学年の人たちと交流できる機会が増えたら、すごく世界が広がって、いろんな場面での自分というのが発見できて、すごく自分を出せるようになったりとかするんじゃないかなと。ちょっと子どもが減るとか、コロナがあってあんまり人と遊べないとか、そういうのってすごくネガティブなことで、このまま三条の人口減っていくのかみたいな感じになってしまうんですけど、もうちょっとポジティブな感じに、せっかくの機会なのでという感じで何か交流できるような機会が増えるといいなというふうに思ったときに、何か見ていたところにイエナプランというのが入ってきたので、それって何だろうと思ったら、ドイツとかオランダで行われている教育で、今いろんな日本でもされているところがあるらしいんですけども、本当に学校がイエナプラン式という、複式学級で1、2、3年生と4、5、6年生と一緒に活動しているみたいな学校もあれば、イエナプランのエッセ

ンスを取り入れた活動を月に1回していますという学校もあって、それが岐阜市立則武小学校というところで、ここに来た校長先生がコロナ禍に赴任してきて、そのときにやっぱりちょっと子どもたちの活動が狭まっていることに気づいて、そういうのを月1で1、2、3年生と4、5、6年生のクラスでやるように、半日とか、1日とか、月1だけだったんですけど、それで主体性を持った自分たちで今日何やるのかというのを考えたりとか、先生がただ黒板に書いてみんなに教えるというのじゃなくて、何するかというのを自分たちで決めたり、分かる人が教えてくれたり、今日はゲームしよう、そのゲームを作ろうとか、発表しようとか、みんなで遊ぼうというのを子どもが主体性を持ってやることで、先生たちはそれをただサポートするというふうに、先生も子どももすごく楽しいというのを、ユーチューブの動画で見ただけなんですけども、すごくわくわくしてきて、楽しそうだなと思って、こんな学校生活が送れたら私も楽しかったなと思いながら書いてみました。

すみません、長くなって。以上です。

(関委員)

ありがとうございます。佐藤さんのこの意見は非常に重要だと思って、これは未来の学校検討委員会じゃないのかなと思うんです。各学園、あと委員の皆さんの意見を聞いて、これから三条市の方たちがまたそれこそ感想であるとか意見、こうしていきたいと思いますということを言われるんだと思うんですけれども、こういう意見、あと統廃合、再配置を希望しますって言った地域の方たちがどういう学校を作っていきたいのか、こういう学校にしていきたいんです、こうしてほしいんですという意見をしっかり聞いた上でこれからも進めていっていただけたらいいなって思いました。

以上です。

(雲尾委員長)

ありがとうございました。そのほかございますでしょうか。

本日は、各学園で検討いただいた方向性について報告、共有いただきました。また、三条市全体についての意見一覧表についても御確認いただいたところでございます。学園ではそれぞれの事情が異なる中で、統廃合が望ましいのか、現在の学校を存続することが望ましいのか、判断がつかないところもあるという形の報告があったわけです。こうした状況を踏まえまして、当委員会としての意見をどう取りまとめていくかということでございます。学園ごとに状況が違うことを踏まえ、それぞれの学園で今後どのような方針で進めていただくかを中心にとりまとめ、また意見一覧表についてのまとめ方については、今関委員からの提案もあったところですが、これについて、なかなかまだ難しいところでございますので、それはまた持ち越させていただきまして、まずは三条市教育委員会の提言書という形で各学園の部分の方針についてまとめた報告書を一旦作るという、そういう成果物と

して取りまとめることについては御賛同いただけますでしょうか。

ありがとうございます。では、当委員会の意見を提言書として取りまとめることと決定いたします。

本日共有された一覧表を基に、次回、第4回の委員会において委員の皆様を確認していただけるよう、事務局で提言書の案を作成願います。

では、議事につきまして、そのような方法で進めさせていただくということですが、よろしいですか。

そのほか御意見ございますでしょうか。

3 その他

次回検討委員会の日程について

(雲尾委員長)

では、3、その他、次回検討委員会の日程についてでございます。これにつきまして事務局から説明をお願いします。

(野水教育総務課長)

今回の検討委員会につきましては、年が明けた新年、1月29日水曜日の午後3時から開催をお願いしたいと考えておりますが、いかがでございましょうか。

(雲尾委員長)

ありがとうございました。それでは、次回検討委員会は1月29日水曜日午後3時から開催するということで決定いたします。

先ほどお願いした提案書の案を1週間前に事務局から事前送付をお願いいたします。

ほかに事務局から連絡ありますでしょうか。

(野水教育総務課長)

ありがとうございます。先日、委員の皆様へこの検討委員会の第1回及び第2回の会議録をお送りさせていただきました。皆様方に御確認をいただいたところでございまして、その後、修正等が必要であるとの御意見がございましたので、皆様方に配付をさせていただいた会議録の「案」を取らせていただき、正式な会議録とさせていただきますことを御承知おき願いたいと思います。

事務局からは以上です。

(渡辺(文)委員)

三条おおじま学園の渡辺ですけども、大島の6つの自治会ではもう提起しようと思って、総会を開催しようというふうに考えておるんですけども、それは時期尚早ということですか。

(平岡教育部長)

ありがとうございます。地域での動きとの整合についてのお問いでございますが、今御提示いただいた自治会での議論については、非常にありがたいなと思って伺ってありました。そういうことが大事なんだろうと考えております。こうした検討というのは、この場だけで終わるものではなく、ましてや更に拡大した学園運営協議会だけで終わっていいものではなく、さらに、その先の地域での任意の御議論が進んでいって、地域の意見として統合されていくものと考えておりますので、ぜひそうした動きを勧めていただければ非常に我々としてはありがたいと考えております。

(渡辺(文)委員)

ただ、やって良いのかやって悪いのかというのは、まだ住民の人に一部の人しか話はしていませんけども、三条市のほうでこういうふうにやってくれということであれば、6つの自治会の総会で自治会員の方から話し合っていただこうと思っていたんですけども、今の話を聞きますと、そういうのはいいことだけでも、それに関して別に何も無いんで、やっても意味がないのかなというふうに今現在は思いました。

以上です。

(関崎委員)

さかえ学園の関崎です。今ほどの意見を聞いていますと、自治会の意見は最終的な判断につながるようなことになっているのでしょうか。それとも、一番自分が思っていたのは、三条市の教育委員会の方針が例えば統合すべきところは統合しますよということが意見出ているのか、あくまでもまだそういうことはないんですけども、今おっしゃったように、自分もそうしようかなと思っていたんですけど、自治会の活動を通じて皆さんに教えるというか、周知して、そこでそれは仕方ないこてやなんて言われれば、それが結論となって教育委員会に出て、教育委員会のほうでじゃ栄地区の3つの学校は統合するんですというような意見書につながるのかどうか。そういうことはないと思うんですけども、このままやっていくとそんなふうにつながるような感じじゃないかなと思って心配しているんですけど、世の中にやっぱり何かやろうと思ったら、基本的に終着点というか、このために意見出すとか、さっき永井さん言ったんですけど、保育所のゼロ歳児とか3歳児とか、そういった方々の意見が全く反映されていない。今の若い人たちは、例えば、割り切っていますから、人が少なければ仕方ないんじゃないのというところに行くんじゃないかとも思うんですけども、自治会の意見聞いたら、やっぱり地域のコミュニティーの中の小学校が存在しているとなれば、だから簡単には統合させないみたいになって意地を張ってくる、そういった状況にもなるんじゃないかなと思うんですけど、下田の場合、地域が多い割に数が少ないから、相当もめるんじゃないかと思うんですけど、何を優先して討議すべきなの

かというのがちょっと最近あやふやになってきました。

以上です。

(高橋教育長)

教育長の高橋と申します。御発言大変ありがとうございました。今お話しいただいた自治会の考え方という部分については、極めて重要な御意見をいただくところということは私たちはしっかりと考えております。基本的に、統廃合だけの話でいいますと、第1回の検討委員会で確認させていただいたとおり、地域から統廃合の要望が強く上がった場合に統廃合の準備に入るということも一つの大きな条件設定になっておりますので、その地域からの大きな要望というのは、自治会の皆様の御意見というのが恐らく筆頭に上がるだろうというふうに思います。ただ、自治会の御意見というのがどの世代のどの皆さんの意見を吸い上げての自治会の御意見になっているのかということも、しっかりとそれはそれぞれの自治会の中で御検討いただくことであって、私たちのほうからその人たちが入っていないと自治会の声ではありませんというようなことは、私たちとしてはおおよそ越権行為だろうというふうに思っています。自治会のほうで、地域のコミュニティーのほうでどれぐらいの御意見を吸い上げていただけるのかというのが地元の地域の声ということになるのかなと。その声があれば私たちは統合の準備に入らせていただくということは、冒頭の第1回の会議で確認させていただいたとおりの条件設定の一つとなっております。

先ほどもいただいたとおり、地域の皆さんで自主的に集まって、自治会の皆さんも含めて、じゃPTAのちょっと代表が集まってみたいな感じで集まってそういった会議をやっていただくということについては、先ほど部長が申し上げたとおり、ありがたいばかりでありまして、私たちとしてはそれをちょっと待ってくださいとか、もう少し先延ばししてくださいとかいうことは全く言うつもりはございません。そういうお考えがあればぜひ地域でやっていただくのが地域のためにもなりますし、安定した子どもたちの生活の基盤にもなっていくのではないかなというふうに思っております。ただ、タイミングとして、先ほども雲尾委員長からお話がありましたとおり、この度の第3回までの検討委員会の内容を受けまして、責任を持って第4回で一定のそれぞれの学園ごとのこうしたほうがいいのかという提言なりを私たちのほうで出させていただきたいというふうに思っておりますので、それを次回御確認いただいてから動いていただくということも一つの御判断の材料になるのではないかなというふうに考えております。また、個々にそれぞれの自治会で何か教育委員会に直接要望があったりとか、こういうふうな話ししてもらいたいんだとか、あるいはちょっと自治会で話をするから、事務局から誰か来てもらえないとか、そういうことについても十分前向きに検討、実践させていただきますので、御要望があればいつでも教育委員会のほうに御連絡をいただければありがたいというふうに思ってお

ります。

以上です。

(雲尾委員長)

ありがとうございました。今、御説明ございました。おおむね御了解いただきましたでしょうか。

(渡辺(文)委員)

じゃ、1月29日の会が終わってから自治会の総会を開けばいいということですか。

(高橋教育長)

それも一つの進め方かなと。

(渡辺(文)委員)

進め方と言われても、ちゃんとした方針がはっきりしないと、それこそ大島地域は1,000軒ぐらい家ありますから、その人たちに意見を發表してもらいたいという総会をしますんで、ある程度やっぱりどうしてくださいますかと言われてないといけないんです。その辺ははっきりしてもらいたいと思いますけど。

(高橋教育長)

自治会の皆さんには、自主的にやりになりたいという会については、繰り返しになって申し訳ないんですけど、私たちからこうしてくださいますかというのは、逆にここにおられない自治会の皆さんにとっても。

(渡辺(文)委員)

そうじゃなくて、市の方の方針がこうだよと言われて、それに対して自治会が進んで会を開いて、そして市に答申すると、そういうことを言っているんで、幾ら自治会のほうで話し合ってくださいと言われてたって意味がないのであれば何にもならないじゃないですか。

(高橋教育長)

繰り返しになりますが、自治会のほうで自主的にやりになるという会については、自主的な御判断の下でお願いしたいと思っているんですけども、私たちのほうで次回一定の提言を出させていただきますので、一つの方法としてそれが見えてからそれぞれの自治会のほうでお話をいただくという方法があるかというふうに思っております。

(渡辺(文)委員)

そう言ういただければそれでいいんで、4回目が終わったら開いてまとめてもいいということですね。

(高橋教育長)

はい。

(雲尾委員長)

ありがとうございました。そのほかいかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

(関委員)

最後に質問1個いいですか。次回の1月の29日で市からの提言がいただけるということだったんですけども、それに対して私たちがまた意見を言うであるとか、その後もう一回この委員会が集められるとかってあるんでしょうか。

(平岡教育部長)

ありがとうございます。今ほど委員からの御質問の中で市からの提言というような言葉頂戴しました。あくまでも提言書につきましては未来の学校検討委員会から教育委員会に対してこういう意見でしたという報告、提言になろうかと思っておりますので、その内容を御確認いただくこと、それがまず第一義的ということになると思います。その内容がもう少し言葉をこうしたほうがいいのか、修正が必要であればさらに会議も必要になってくるかと思いますが、その後の予定は第4回を受けてまた進んでいくものと考えております。基本的には第4回で検討委員会としての一定の考え方として整理させていただければと思っております。

(雲尾委員長)

市からの提言というより、この委員会の提言ですので、皆様の意見を基にして作られた今日の確認した部分を提言書とする、その文言についてこれでいいかということを第4回で確認する形で。ですから、そこで当然違うんじゃないかという意見は出していただいて、そこで収まれば、変えるにしても変える方向性が確認できれば第4回で終わるだろうし、そうでなければ第5回もあるかもしれないというお話です。

(関委員)

関崎さん、そうですね。じゃ、私たちがこれ集まって出した意見に対して、市からの感想や意見は一切来ないということですか。私たちからの言葉がただ上がって残るだけで、市がそれを見て、聞いてどう思ったかとか、どうしていこうと思ったという意見や感想は一切私たちには返ってこないということでしょうか。

(高橋教育部長)

私が提言を出させていただくという言い方をしたので、少しづれが生じたんだと思えますけれども、皆さんからいただいた内容、今日のここにも出ていた内容を全て踏まえて、事務局のほうでこの検討委員会としての提言案を作成させていただくという形になるわけですので、当然事務局側が解釈した内容も盛り込まれて入るわけでありまして。それが、それでいいのかどうかを踏まえて、御意見をまた第4回でいただくことになりまして、必要があれば第5回の委員会も開く準備はありますが、できる限り4回で収めることが一番

望ましいのではないかと。そのために事務局としても一生懸命皆さんからいただいた内容を提言案としてまとめていくと。そして、提言はこの会の提言として出させていただくという形になるということでございます。

(関崎委員)

過去3回含めこれだけ膨大な資料で検討しているんですけど、あんまりよく分からない。分かっているようなふりしているんですけど、先を見通せない。質問があったんですけど、肝心要のゼロ歳児とか3歳児とか、これから直面するであろう人たちの意見がこういう場面に全く反映されていないことを考えると、幾ら資料、例えば自治会でミーティングやって、打合せ会やって、そこでいろんな意見が出ようとも、この資料の、3回分の膨大な資料の内容を理解してもらえるかどうかというのは考えただけでも難しいことだと思います。だから、この次の1月でもう提言まとめる、発表するというのはまだ早いんじゃないかと思いますが、どうでしょうか。

(高野委員)

私も似たような意見を持っていて、今年度でこれが終わるのか、来年度のこの時期にちょっと人数が変わって、メンバーの構成が変わって続くのか、この辺のどういうふうが続いていくのかってすごく重要だと思っていて、例えば今年度のこの会であればこういう提言が出ましたは一つの区切りだとは思んですけど、来年に対する課題を残すということも必要だと思うんです。さっき瑞穂学園のほうの話が出たんですけど、ゼロ歳児という御意見があって、ちょうど令和22年度までの人数の推計が出ているんですけど、今生まれた方が、今、今日生まれた方がちょうど中学3年生ぐらいが令和22年なんです。なので、やっぱりまだそこまで想像できないかもしれないですけど、なるべくお若い保護者の方だったりの意見もすごく重要だと思いますし、今回、次回の4回目が終わった後のその先のビジョンみたいな方向性、提言ができました。それをまとめて提出されました。その後はどういう時間軸で、どういうスパンで、どういう組織がどう対応していこうとしているのかというところはちょっと気になるところであります。

(平岡教育部長)

ありがとうございます。それでは、私のほうから若干来年度、再来年度等々のことを含めてのお話をさせていただければと思っております。

まず、小学校の統廃合であつたりとか、子どもが減少していることに関する課題に対応していく中で、三条市においては統廃合の検討を開始する基準というものを過去策定いたしました。確認いたしますと、1つには校舎の安全性が確保できない場合、1つには著しく小規模な状況、複式学級が2学級編制が継続する場合、それからもう一つには保護者、地域からの要望を受けた場合ということであつたわけです。

この間の経過を申し上げれば、この1番に該当するものについてはもう解消してきた経緯もございます。今憂慮すべきは、2番の著しく小規模な状況、複式学級が2学級が複数年継続するというような状況がもう確認され始めてきているというような状況がちらほら出てきたわけです。他方で、保護者、地域からの要望というのは、具体的にはこの間子ども市においても、教育委員会においても受けておらなかったというのが事実でございます。

そうした問題意識から今年こうして皆様にお集まりいただいて、今後の三条市の子どもたちの環境を考えるに当たって、どうしていくべきか、どうあるべきかということを御議論いただいてきた、これが第1回、2回、3回ということで進めてきたわけでございます。その結果として、各地域によって考え方が異なる、あるいは、地域によって実情が違う中で、苦渋の判断といいますか、方向感をお示しいただいたというのが今日の資料のおおむねの方向感の整理ということでございます。

この中で例えば下田地域については、児童数の減少が著しい中で、速やかに統廃合の検討を進めていきたいということで、この資料の言い方で御了解いただけたところもございますので、統廃合を検討していくということであれば、例えば来年度においては地域懇談会に入って、地域や学校ごとの懇談を行い、検討委員会での結果をお示しして、地域の個別の御議論をいただいて、改めて地域の大勢、御意見の大勢がどこにあるのかを探りながら、それを受けて、教育委員会において統廃合を準備すべきか否かということを決断するというような運びになっていきます。そこで統廃合の準備を開始すべきということで舵が切られたならば、その後地域に更に入っていく、統廃合準備委員会というものを立ち上げて、具体的な統廃合の内容を御議論いただくというような運びで進んでいくわけでございます。

今日おおよそが見えてきた中においては、多くの学園においては引き続きの検討が必要だということで御議論いただいたわけでございます。全くそのとおりだと思っております。ただ、やみくもに引き続きで毎年議論を進めていくよりも、まずは1年目進めてきた中で地域意見はこうした概要でしたということは、一定線、教育委員会にこの検討委員会の成果としてお示しする必要があるかと考えておりました、そのための提言書という形でいかにかという御提案でございます。それを受けて、また引き続き協議していく必要があるという学園も多々ございますので、どう進めていくかについてはまた少し今後考えさせていただければと考えているところでございます。

(関崎委員)

よろしいですか。

(雲尾委員長)

先に佐藤(江)委員お願いします。

(佐藤(江)委員)

先ほども前回の会議が終わった後もゼロ、1、2、3歳児を持つ保護者の方の意見を全然聞いていないから、それを盛り込んだほうがいいというふうな意見を伺ったんですけども、実際今私たち3人来ていて、私と大箭さんは小学生以上の子どもがいるので、少し小学校、中学校ってこういう感じかなというイメージが湧いていて、藤島さんはまだ小学校1人。ちっちゃい生まれたばかりの子だけだと本当に全然もうちんぷんかんぷんで、多分聞かれても何のイメージもないかなというふうに思います。今少し予備知識あってここに来て良かったなというふうに思っているんですけど、例えば今この栄庁舎の隣にすまいるランドがあって、あと旧一ノ木戸小学校のところにあそぼってがあるんですけども、そこは本当にゼロ、1、2、3歳児ぐらいまでの子どもを連れた保護者の方たちがお父さん、お母さん両方たくさん来られていて、私も子どもちっちゃいときはよくどっちにも行っていたんですけども、今日の小学校の在り方に関する意見の中から何かポイントになるような部分を幾つかピックアップして、それをすごく思うとか、少し思うとか、思わないみたいなアンケートが例えばあって、その場所で、2か所で協力してもらえると分かりやすく意見もらえるんじゃないかなと思いました。何もないとこでどういうふうに学校に通わせたいですかとか言われても、今うち3番目が年長で、これから初めて小学校に行かせるという友達が周りにたくさんいるんですけども、さて小学校に行くってなったときに、裏小はすごく遠いんだということにそのとき気づいて、それだったら嵐南が近いから、嵐南に通わせようかなって迷っているというふうに、この時点で迷っていたりとかしているの、その場にならないとやっぱり自分がこれからどういうふうに進んでいくかというのは、割と毎日いっぱいいっぱいなので、イメージつかないと思うので、難しいところをかみ砕いたようなアンケートが取れて、小さい子を持つお母さんたちとかの意見が取れたらいいんじゃないかなと思いました。

(関崎委員)

関連ですので、結構です。

(雲尾委員長)

ありがとうございました。皆様の意見を踏まえまして、次回に提言案と方向性につきまして御審議いただくということで進めさせていただきますが、よろしいでしょうか。

長時間にわたり、御審議いただきありがとうございました。

以上をもちまして、第3回三条市未来の学校検討委員会を閉会いたします。お疲れ様でございました。